



## 2021 森林科学公開講座

日時：2021年11月13日（土）14:00-16:00

開催方法：Zoomを使ってのオンライン配信  
参加費は無料ですが、事前登録が必要です（最下部参照）

### 「樹木と森の季節性」

#### プログラム

開会の挨拶：14:00-14:05 専攻長：上高原浩  
趣旨説明：14:05-14:10 司会進行担当・北島薫  
話題1：14:10-14:45 小野田雄介「葉っぱの春夏秋冬」  
話題2：14:45-15:20 岡田直紀「漆掻きの四季」  
話題3：15:20-15:55 舘野隆之輔「北国の森の春：雪が減るとどうなる？」  
閉会の挨拶：15:55-16:00 副専攻長：杉山淳司

#### 概要

四季豊かな日本の森の木々は、北から南までの様々な気候の特性に適応して息づいています。紅葉の季節によせて、今年の森林科学公開講座では、3人の教員から、樹木の季節性に関する興味深い話題をご提供いたします。

#### 「葉っぱの春夏秋冬」 小野田雄介 熱帯林環境学分野・准教授

夏は青々していた落葉樹は、秋が近づくにつれ、徐々に黄や赤に色を変えます。一方で、常緑樹は、通年、青々しています。落葉樹と常緑樹は全然違うグループのようですが、いろいろな分類群で、何度も進化してきました。葉っぱの春夏秋冬は落葉樹で顕著ですが、常緑樹にもあります。日本の四季の中で、落葉樹と常緑樹が進化してきたその背景をお伝えします。

#### 「漆掻きの四季」 岡田直紀 森林利用学分野・准教授

丹波の伝統的な漆掻きは秋の山見から始まります。山の中でいち早く黄葉するウルシの葉は翌年の漆掻きの樹を探す良い目印です。春、ウルシは芽吹きより先に幹が太り始め、開葉が終わった梅雨前に幹に初鎌を入れます。初鎌の頃に樹皮から出てくる乳白色の生漆は、真夏の盛漆（さかりうるし）ではより透明となり、量も増えます。生漆の出が衰える初秋の頃、止め掻きが行われて季節の生業が一巡りします。

#### 「北国の森の春～雪が減るとどうなる？」 舘野隆之輔 森林情報学分野・教授

気候変動により、雪が減る地域では、春先の雪解け時期も早くなります。冬に土が凍る北海道東部の京大の研究林で、雪が降るたびに森にでかけて雪かきをし、人工的に雪を減らす大規模な野外実験を行い、森の土の中の微生物や植物の根がどのような反応を示すかを調べた結果を紹介いたします。

参加方法は、11月6日までに事前申し込みをなさった先着200名にご案内します。

事前申し込みは、以下のgoogle forms リンクから。

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdpOLr\\_jH0fY373r29bWvU5VcX4gLB14mdGd\\_bEDHrm1z2VISPg/viewform?usp=sf\\_link](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdpOLr_jH0fY373r29bWvU5VcX4gLB14mdGd_bEDHrm1z2VISPg/viewform?usp=sf_link)